



## ★目標達成に至るプロセス

例えば、医師・弁護士・

公認会計士(MBA)といった職務に就きたいならば、医師免許、司法試験合格、MBA免許取得が必要ですから、まずそれらの取得率・合格率の高い大学を選定し、その大学の合否判定A～Cの偏差値を知るところから始めます。そこから「合格力＝自分の学力÷養成すべき学力」という方程式が生まれるので、その上で入試期日までの期間も念頭に置き綿密な合格作戦を立てましょう。センター試験に対しても、ボーダーラインの確認をしておく必要

があります。

弁護士として活躍するA氏は、手記で次のように述べています。「進学校ではない、ごく普通の高校2年生の時、サスペンスドラマ

で弱者の弁護士として活躍している姿に強く感動して弁護士になりたいと強く思い、司法試験合格率の高い大学を調べて東大文工(法学部)受験を決意。現役合格を果たし、3回生の時に司法試験合格の快挙を手にしました。いずれも、合格の要因はハイレベルなモチベーション、ぶれない精神、工夫を凝らした勉強法、弁護士として活躍しているリアルなイメージ力であったと思います。それと、両親が折に触れて言っていた『天はその人が耐えられ、乗り越えることができる試練しか与えないものだよ』

の言葉にとても勇気づけられました。現在、弁護士として活躍できているのは両親の励ましがあったからこそと感謝しています。

当ゼミでは少人数体制ならではのメリットをフルに活かし、生徒さんの将来がかかっているということを念頭に愛情を込めて、モチベーションアップの促進と精選問題での授業展開、そして生徒の個性を考慮したベストな勉強法を指導しています。塾歴28年、三田校開校以来1年6ヵ月。三田近郊においては、マニアックな進学塾として位置づけつつ、学力向上指導を軸に人間としても一回り大きく成長する優秀な生徒を輩出していく姿勢を貫いています。(進学ゼミ・パラダイム塾長) ★詳細は表紙広告をご参照ください。

## 2学期を迎えて

2学期以降からは学校授業レベルが上がっていきます。1学期の反省を踏まえ、弱点科目・項目を克服するために夏休み期間中頑張ってきた人、十分にできなかった人との学力格差がついていくのが2学期以降なのです。定期試験で高得点を取るために、いかにしてマイナス点を減らすかの原因究明と具体的対策を取るのが効果的であり、最短の道なのです。

入試対策においても同様のことがいえます。競争倍率に翻弄されることなく、いかにマイナス点を減らすかに視点を向け、その原因究明と具体的対策を取ることによって結果的に合格圏内に入れることになるのです。

スポーツ界において、記録を伸ばせる選手は積極的イメージ力で練習し、さらに名コーチからモチベーション、キーポイント、テクニック、正しい練習法のコーチングを受け、そのアドバイスの下に練習を積み重ねた結果、記録更新ができていくといわれています。学習面、受験対策についてもスポーツ界と全く同じだと思います。成績を伸ばせる人、目標校に合格できる人の共通項なのです。

今までが不本意だったと痛感しているならば、絶望感、不安感、無気力感から脱出するために、勇気をもって自分自身を変えられることです。

当塾は28年の塾歴から、目標意識を持ち続け、諦めなければ目標を実現できるのだということを実証した生徒さんを多数輩出してきました。

ある心理学者は「勇気を持ち、本気で行動すると予想外のポテンシャル（潜在能力）が発揮できる」といっています。

皆さんも希望を持ち、勇気を出して本気になり、目標達成のために奮起してみてくださいか。（進学ゼミ・パラダイム塾長）